



▲江農地方激震被害



▲日本赤十字社旧社屋建築図



▲大正元年に竣工した日本赤十字社本社



▲昭憲皇太后

昭憲皇太后基金

赤十字の平時における事業推進のため、昭憲皇太后が国際赤十字に10万円を寄付され、この資金をもとに明治45年にワシントンで開催された第9回赤十字国際会議で昭憲皇太后基金の設置が決められました。赤十字国際委員会は1920年、昭憲皇太后基金規則を制定しました。これにより昭憲皇太后基金の配分は、元金を使用せず基金の利息のみを充当し、基金は、赤十字国際委員会3人と国際赤十字・赤新月社連盟3人の代表から成る合同委員会が管理し、毎年、昭憲皇太后のご命日である4月11日に、その利息を要望のあった赤十字社、赤新月社に配分することになりました。



▲日本赤十字社創立25周年（博愛社創設から35年）記念祝典錦絵



▲国産車初の救急車



▲東京水害救護所

6月 改正赤十字条約を公布する 11月 初めて東京支部常設救護所を設置 日本赤十字社のあゆみ	1月 イタリア震災救援金を募集 4月 改正商標法を公布し、赤十字記号等の濫用を禁止する 8月 江濃地方激震により滋賀支部が救護を実施	5月 改正日本赤十字社条例を公布する。これによって陸海軍の戦時衛生勤務幫助が救護事業の一部として確定された 6月 第18回通常総会を日比谷公園にて挙行、改正定款を決議し翌日から施行 9月 日本赤十字社病院規則を制定。乙種看護教程・看護婦生徒修身教授参考書刊行	1月 患者輸送教程刊行 4月 東京市大火 8月 トルコ赤新月社に火災救援金送金 9月 災害救護規則を制定し、天災救護規程・臨時救護規程を廃止 11月 中国擾乱に際し、漢口日本租界に救護班派遣	1月 大阪市難波新地で大火、5,000戸焼失。大阪支部は救護班4個班を派遣 1月 改正赤十字条約の原則を海戦に応用する条約・改正陸戦の法規慣例に関する条約を公布 5月 皇后陛下から赤十字国際委員会に平時事業奨励基金（のちの昭憲皇太后基金）として10万円をご下賜 9月 日本赤十字社新社屋完成（現在の東京都港区芝大門）	1月 結核予防撲滅に関して、諮問会を開く 3月 赤十字国際委員会を通じて、バルカン交戦地に3,000フラン送金

1908 明治41年	1909 明治42年	1910 明治43年	1911 明治44年	1912 明治45年～大正元年	1913 大正2年
世界と日本の動き 4月 第1回ブラジル移民を乗せた笠戸丸が神戸港を出港 10月 オーストリア・ハンガリー帝国がボスニアとヘルツェゴヴィナを併合	6月 両国国技館が落成 9月 満州及び間島に関する日清協約が調印される 10月 伊藤博文が満州で暗殺される	8月 日韓併合条約が調印される（韓国併合） 8月 フローレンス・ナイチンゲール死去 10月 アンリー・デュナン死去	2月 日米新通商航海条約が調印され、日本の関税自主権が回復される（小村寿太郎） 11月 外モンゴル（現在のモンゴル国）が清から独立宣言	2月 中国で愛新覚羅溥儀が清朝皇帝を退位し、清が滅亡する 4月 タイタニック号沈没 5月 第5回ストックホルムオリンピックに日本初参加 7月 元号が明治から大正に改元される ▲第5回ストックホルムオリンピック ▲タイタニック号	10月 日本政府が中華民国を承認する 12月 チベットとモンゴルが「チベット・モンゴル相互承認条約」を締結



◀ 京都支部が夏季児童保養所を開設（大正10年、宮津）



▶ 救護班派遣に対し、イギリス赤十字社から贈られた感謝状



◀ ロシア・ウラジオストクの救護員と病院列車



◀ パリの宿舎で食事をするフランスに派遣された看護婦



▶ イギリスに派遣された救護班



▶ 病室でロシア人を看護する日本赤十字社救護員

6月 富山県魚津町付近で汽車転覆。救護員を派遣

11月 ロサンゼルス特別委員会を設置

11月 香川県小豆島沖において海軍潜水艇爆発。救護員を派遣

1916 大正5年

8月 米国がフィリピンに関するジョーンズ法を制定

12月 ロシアで政局を左右したラスプーチンが暗殺される



▶ 東京水害での救護活動

8月 東京、大阪、静岡、茨城、千葉、福島、新潟等の府県で水害。死者・行方不明1,300人、倒壊・流失4万3,000戸。救護を実施

10月 救護員講習規程を設定

1917 大正6年

3月 ロシア革命

9月 中華民国で孫文が広東軍政府を樹立

12月 赤十字国際委員会がノーベル平和賞受賞



◀ ロシア革命



◀ 赤十字社連盟創設
赤十字社連盟創設5社の代表（1919年5月5日）
左から蜷川新（日本）、アーサー・スタンレー（イギリス）、ヘンリー・デビン（アメリカ）、フラスカラ（イタリア）、ケルコレイ（フランス）

赤十字社連盟の創設

第1次世界大戦の間、赤十字国際委員会（ICRC）を中心に各国赤十字社が、傷病者のみならず一般住民の苦痛軽減のために展開した活動は、規模も大きく内容も多種多様であり、その成果は世界の認めるところとなりました。

第一次世界大戦の終了直後である1918年（大正7年）に、アメリカ赤十字社戦時委員会委員長ヘンリー・デビソンは、日本赤十字社の外事顧問蜷川新の発想を基に「世界規模で、恒久的に平時における健康の増進、疾病の予防及び苦痛の軽減にあたるため、各国の赤十字社を国際連盟に匹敵する組織に連合する」ことを提唱しました。

これを受け、1919年（大正8年）2月1日、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、日本の5カ国の赤十字社の代表が五社委員会を結成、協議しました。

同年5月5日に、各国赤十字社の国際的連合体として赤十字社連盟が設立されました。その後、1999年（平成11年）に名称を国際赤十字・赤新月社連盟と改称し、今日に至っています。



▶ シベリアの病院列車

4月 社員篤志表彰規程を設定

7月 第1次臨時救護班を東部シベリアに派遣する

1918 大正7年

3月 イギリス、フランスなどが対ソ干渉戦争を開始する

7月 富山に米騒動が起こる

8月 シベリア出兵

8月 原敬内閣成立



▶ シベリア出兵

1月 ロシア窮民救済のための衛生材料の調達及び配付

2月 5カ国赤十字社代表委員会議開催につき、蜷川新をカンヌに派遣する

5月 赤十字社連盟の創設。赤十字社連盟を構成し、赤十字社連盟規約に調印する

1919 大正8年

1月 パリ講和会議

8月 アフガニスタンがイギリスから独立

10月 ベルサイユ条約



▶ ベルサイユ条約締結

7月 第一次世界大戦（～'18）
第一次世界大戦で病院船の派遣など救護活動を行う

10月 結核撲滅事業や児童保養所事業などが始まり、京都支部が夏季保養所開設

11月 ロシア、イギリス、フランス3カ国の救援活動を支援するため、それぞれの国へ救護班を派遣

12月 俘虜救恤委員規程を制定。また、俘虜救恤中央事務局へ経費として2,000フラン送金。
この年より結核予防撲滅事業を実施

日本赤十字社のあゆみ

1914 大正3年

世界と日本の動き

1月 桜島大噴火

7月 第一次世界大戦（～'18）

8月 パナマ運河が開通

12月 東京駅開業。これに伴い東海道本線の始発駅が新橋駅から東京駅に変更される



▶ 第一次世界大戦



▶ 日本参戦を伝える国民新聞

1915 大正4年

1月 イタリア王国アヴェッツァーノにてマグニチュード6.8の地震。死者約3万人

1月 中国に21カ条の要求

7月 米国がハイチを占領

1915 大正4年

1月 イタリア王国アヴェッツァーノにてマグニチュード6.8の地震。死者約3万人

1月 中国に21カ条の要求

7月 米国がハイチを占領



フローレンス・ナイチンゲール記章

フローレンス・ナイチンゲール記章は、1907年(明治40年)の第8回赤十字国際会議で、同女史の業績を末永く記念するための基金設立の案が出たことを受け、1912年(大正元年)の第9回会議で設立が正式に決定しました。その目的は世界各国の顕著な功績のあった看護婦を顕彰するもので、基金は赤十字国際委員会により管理され、その資金は各国赤十字社からの募金によることとされました。

第1回の記章の授与は1920年(大正9年)に行われ、この時、日本赤十字社看護婦の荻原タケ、山本ヤヲ、湯浅うめの3人が受章の栄誉に輝きました。日本は2005年までに97人が受章しました。



▲ケルンで開かれた万国看護婦大会へ向かう山本ヤヲ(左)、萩原タケ(右)



▲フローレンス・ナイチンゲール記章



▲ポーランド孤児

ポーランド孤児の支援活動

ロシア革命後の内戦に巻き込まれたシベリア在住のポーランド人は、飢えと寒さ、疫病などで過酷な生活を送っていました。男性は義勇軍として戦場に駆り出され、女性も子どもを残し死んでいく者が多く、後には多くの孤児たちが残されました。これらシベリアのポーランド孤児のうち、1歳から16歳までの765人が、1920年(大正9年)から1922年にかけて2回にわたり、日本赤十字社の援助により日本経由で故国の土を踏みしました。これは日本赤十字社の最初の外国人難民支援活動でした。

第1回目の孤児たちは約1年間の日本滞在の後、横浜から米国経由で、2回目の孤児たちは大阪で生活し、神戸から欧州航路でポーランドに帰国しました。

3月 第1回赤十字社連盟総会に本社代表委員として副社長徳川圀順侯爵と外事顧問蜷川新を派遣

5月 赤十字国際委員会より、看護婦監督荻原タケ、同副監督山本ヤヲ、看護婦長湯浅うめにナイチンゲール記章が授与される

7月 赤十字国際委員会において昭憲皇太后平時救護事業奨励基金規則を制定

7月 常時会において、ポーランド孤児を救済することを決議する。7月より10月まで児童241人、付添人21人を東京で受入
日本赤十字社のあゆみ

5月 産院規則・産婆養成規則を制定。赤十字社連盟創設の主旨にのっとり平時事業を実施するため本部規則を改正。調査部を設置

1920 大正9年

世界と日本の動き

1月 国際連盟設立

4月 ポーランド・ソビエト戦争が起こる

5月 第1回メーデーが行われる



▲ポーランド軍と戦うため出発する部隊に演説するレーニン



▲第1回メーデー

1921 大正10年

1月 志賀直哉が「暗夜行路」を著す

7月 ワシントン会議で日本・米国・英国・フランスの四か国条約が調印される。日英同盟が廃棄される



▲ワシントン会議



▲少年赤十字への加盟にあたっての団旗の授与式(大正12年、滋賀)



▲第2次ポーランド孤児の帰国

福島支部の
▼少年赤十字団旗



2月 赤十字国際委員会において第1回昭憲皇太后基金の利子配分

4月 日本赤十字社産婆養成所開設

5月 ハルビンにおけるロシア避難民救済のため、薬品、医療機材、患者被服等援助

5月 少年赤十字設置要項、児童養護講習会要項を制定

6月 滋賀支部に初めて少年赤十字団設置(青少年赤十字の前身)

8月 第2回ポーランド孤児の救済を行う。児童390人と付添人39人を受入の後、香取丸・熱田丸に分乗させてダンチヒへ輸送

1922 大正11年

1月 糖尿病患者に世界初のインスリン投与が行われる

3月 全国水平社ができる

12月 ソビエト社会主義共和国連邦の成立が宣言される



▲「関東大震災宮城前本社東京府支部臨時救護所」五姓田芳柳作



▲救護バス

▲アメリカ赤十字社から送られた
救援品ウイスキー



▲関東大震災における救護班



3月 本社病院に児童健康相談所を新設

9月 関東大震災。被害戸数68万戸、被災者312万人余(死亡9万8,000余人、負傷者10万3,000余人、行方不明4万3,000余人)。救護予算500万円を計上して救護活動を実施。創設間もない赤十字社連盟に世界各国から寄せられた義援金の総額は、赤十字社連盟の歴史に残る多額のものとなった

1923 大正12年

9月 関東大震災

10月 トルコ共和国が成立する



▲関東大震災



▲▼ 第2回赤十字東洋会議



▼ 創立当時の少年赤十字の雑誌



▲ 創立50周年記念式典



▲ 京都府丹後地方震災に救護員を派遣



▲ 赤十字参考館 (のちの赤十字博物館) で早老防止展覧会開催

日本赤十字社のあゆみ

1月 千葉支部富浦海浜学校開校。173人の虚弱児童収容

9月 アメリカとキューバの大暴風被災者支援のため、災害救援金を、アメリカ赤十字社、キューバ赤十字社に送金

11月 創立50周年記念式典

11月 第2回赤十字東洋会議

12月 衛生講習会(救急法や家庭看護法の前身)始まる

12月 赤十字参考館(のちの赤十字博物館)開館

3月 京都府丹後地方震災、死者3,589人、全壊3,340戸。アメリカ赤十字社、ソビエト赤十字社から救援金が贈られる

10月 社会看護婦の養成を開始

10月 ハーグで第13回赤十字国際会議が開催される。国際赤十字規約が決議され、同月から施行

7月 赤十字社連盟の主催でジュネーブにて少年赤十字国際会議が開かれ、本社は林博太郎博士を嘱託委員として派遣

11月 北伊豆地方震災、死者254人、全壊2,290戸。静岡、神奈川、東京の各支部が救護を実施

1924 大正13年

1925 大正14年

1926 大正15年～昭和元年

1927 昭和2年

1928 昭和3年

1929 昭和4年

1930 昭和5年

世界と日本の動き



▲ 治安維持法

2月 国家社会主義ドイツ労働者党(ナチ党)が再建

4月 治安維持法が定められる

5月 普通選挙法が公布され、25歳以上の男子に選挙権が認められる

8月 捕虜の待遇に関するジュネーブ条約成立

2月 川端康成が「伊豆の踊り子」を著す

5月 十勝岳が大噴火し、死者144人

7月 中国で蒋介石が国民革命軍を率いて北伐を開始する

9月 ドイツが国際連盟に加入し、常任理事国となる

12月 元号が大正から昭和に改元される



▲ 地下鉄開通

3月 金融恐慌

3月 南京事件

3月 田中義一内閣成立

10月 中国共産党の毛沢東がソビエト政権を樹立する

12月 上野・浅草間に日本最初の地下鉄が開通する

2月 最初の普通選挙権実施

8月 パリ条約、パリ不戦条約(ケロッグ=ブリアン条約)に日本を含む15カ国が署名する

11月 ミッキーマウスが公式に初登場

1月 スターリンが、トロッキーを国外追放。スターリンの独裁体制

2月 ラテラノ条約締結

2月 バチカン市国が独立

10月 世界恐慌



▲ 世界恐慌